

自分らしさを磨き 個人のブランドを 確立してほしい

学校法人実践女子学園 理事長 井原 徹
取材・文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【理事長プロフィール】1946年生まれ。早稲田大学第一法学部卒業後、69年早稲田大学職員に。財務部長、早稲田大学理事・監査室長などを歴任後、定年退職。06年実践女子学園監事就任。総務部長兼内部監査室長、常務理事を経て09年より現職。

【学校法人プロフィール】1899年実践女学校、実践女子工芸学校として創立。現在、実践女子大学が3学部（文学部、生活科学部、人間社会学部）7学科、実践女子短期大学が4学科体制。大学院および実践女子学園中学校・高等学校を併設。

企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）が問われる今、大学の社会的責任（USR）も問われています。社会はもう、安易に単位を与えていることや、いつまでもモラトリアムという言葉のもと学生を放置することを許してはくれません。では、大学が社会に果たすべき責任とは何でしょうか。それは教育、人材育成です。

仮に国家の求める人材を金太郎飴的に作るのであれば大学は一つあれば事足りるかもしれません。日本大学〇〇分校をいくつも作れば手間もお金もかかりません。でもそんなことで社会に有為な人材など育つはずもない。

そこに建学の精神をもつ私大、さらには女子大の存在意義があるのです。

本学は大衆女子教育の先覚者下田歌子によって110年前に設立されました。学祖は「女性の清らかな特性と豊かな情操をもつて社会の弊を正せ」と説きました。女性のもつ特性で世を正すことができると指摘したのです。こうした理念は今、「品格・高雅・自立・自営」という言葉に集約され、根付いています。

私が本学にきた3年前、学生から「おはようございます」という言葉をかけられ、大変驚かされました。しつとりと落

ち着いた雰囲気キャンパスを覆っていたのです。派手さはありませんが、これこそ学園が大切にしてきた伝統です。

ただ、いくら品格を身につけても社会人としての基礎力がなければ自立・自営できません。そこで今年度から始めたのが全学部共通の教養科目「実践スタンダード科目」とその発展版「実践アドバンスト科目」です。膨大な教養科目群に加え、初年次教育やキャリア教育を柱に、外国語教育、情報リテラシー教育を充実させた教育課程です。実践スタンダードと名付けたのは「本学に入った以上、最低限ここまでは保証します」と示したかったからです。先の4つの精神を土台に教養教育、その先の専門教育を受けることで他に負けない力がつくでしょう。そのうえで自分らしさを磨いてほしい。それは「個人のブランド」を確立するということです。ぜひ在学中に自分というブランドを確立してほしいと願います。

本学は「学生を大切にする学園作り」を進めてきました。私は一歩進め「学生が大切にされていることを実感する学園作り」をしたいのです。思いを伝えるだけでなく、どう感じているかの検証も必要です。その視点を忘れてはいけないと思っています。